

土肥がテングサ保全活動を開始

近年、伊豆半島西岸ではテングサの不漁が深刻化しています。一大産地である土肥でも、テングサの着生量が少ない不良漁場が拡大しており、漁獲量は大きく減少し、漁業者は危機感を募らせていました。そこで、伊豆漁協土肥支所では、テングサ漁場を何とか残していくため、水産イノベーション対策推進事業を活用したテングサ漁場の保全活動を開始しました。

11月15日に初回の活動が行われ、地元ダイビングショップのインストラクターが潜水し、テングサの着生を阻害する小型の雑海藻を除去する「雑藻刈り」を小下田と八木沢の両地区で行いました。その後、雑藻刈りを行った場所にテングサの胞子を供給するため、他の場所で採取した成熟したテングサを投入する作業(スポアバック胞子方式)も行われました。

今後は、胞子供給のためのテングサの交換、また活動場所のモニタリングを実施していく予定です。



写真 鎌で雑海藻を除去するダイバー

(鈴木聡志)